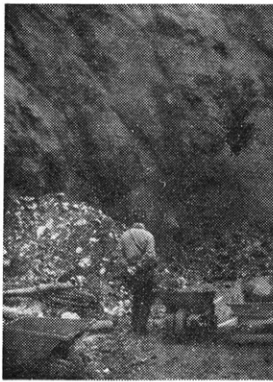


桂岡鉄山

新発見の磁鉄鉱鉬床

北海道渡島国上ノ口村

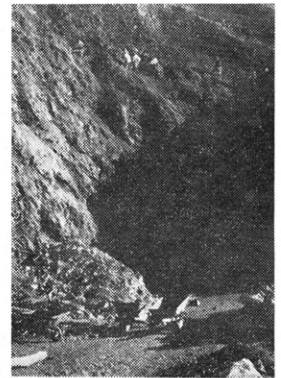


桂岡鉄山中段鉬石露頭

今まで鉄鉬石として北海道から採掘されていたものは、褐鉄鉬と比較的少量の含マンガン赤鉄鉬のみであつたが、昭和27年に渡島国上ノ口村厚志内沢に磁鉄鉬のかなり大きな鉬床が発見され、日本の鉬業界ならびに製鉄

なを磁鉄鉬鉬床の外側には厚さ数mから10mを超える褐鉄鉬が胚胎している。

品位はFe 64~69% 褐鉄鉬に近いと思われるものではFe 56~59%で、その他のS・P・As等は0.2%にも満たない。



中段現場

業界に一大センセーションをまきおこした。

桂岡鉄山は江差線桂岡駅から南南西直距離4km 海拔約170mの所に位置している。

鉬床は古生層中を切る輝緑岩質玢岩を交代したもので、閃緑岩—酸性玢岩に由来する熱水性交代鉬床であると考えられ、北北西—南南東の構造線に沿つて不規則塊状体をなし、ときに

雁行状となりほぼ500mの間に断続しているようであるが、現に採掘中の鉬体ではその延長150m・幅70m・深さ15mまでが確認されている。

磁鉄鉬鉬石は一般に帯紫暗灰色微粒状集合体をなし、比較的脆弱で破碎しやすい。

桂岡鉄山は昭和27年12月から出鉬を開始し、当初は月1,000~2,000t (Fe約65%)、28年7月には5,000t (Fe約58%)を超え、その後も月産4,000~5,000tの出鉬を見ているが、現在4段のベンチを切り露天掘にて採掘中である。

以上のように桂岡鉄山は希に見る優良鉬石をもつ大鉬床であり、かつ開発

の緒についたばかりなので、今後の探鉬次第（例えば構造線に沿う物理探鉬、本鉬体深部の状況を知るための坑道掘進あるいはボーリング等）によつて本邦有数の鉬山となる可能性がある。

(北海道支所・探鉱課)



剝土作業



鉬石をピツグ・ハンマーにて破碎する作業